

## 質問

SWOT分析について詳しく知りたいです。(岐阜地区 小学校)

全職員が可能な限り週1時間もしくは補充で特別支援学級の授業を受け持つのは大変よいと思いました。これは、小学校でも実践されたのかが知りたいです。(西濃地区 小学校)

特別支援学級の授業を全職員が受け持つ体制づくりに驚きました。どの位の学校規模なら可能でしょうか。(西濃地区 小学校)

SWOT分析と実践のつながりがどうなっているのか知りたいです。(東濃地区 小学校)

勉強不足で恥ずかしいですが、SWOT分析はどのように進め、どのように生かすとよいでしょうか。(東濃地区 中学校)

教育相談室が整備されていましたが、小学校でも職員は配置されているのでしょうか。(飛騨地区 小学校)

コーディネーター育成の具体的な手立てを教えてください(可茂地区 小学校)

興味深い研修への参加の推進をしておられますが、この研修はどこで受けられますか？(西濃地区 小学校)

教頭会で実践を交流して、他の学校の実践事例を導入して、うまくいったという例も教えてほしい。(美濃地区 中学校)

保護者育成の手立てにおける図書購入の原資は、学校予算、PTA会計でしょうか。(東濃地区 小学校)

子どもを語る会の交流は、小中別で行っているのか。(東濃地区 小学校)

特別支援に関わった交流は、小中別に行っているのか。(東濃地区 小学校)

WISCIVの研修には、講師に誰をどのように依頼されましたか？(東濃地区 中学校)

個別の支援計画を立てている生徒が増えてきたが、具体的にどのように対応してみえるかをもっと知りたいです。(西濃地区 中学校)

## 意見・感想

障がいの状況に応じて適切な支援を保護者や本人の理解のもと行っていくことの重要性を再認識できました。(岐阜地区 中学校)

各校の強みと弱みを客観的に捉え、改善に生かしている点が参考になりました(東濃地区 小学校)

教育相談室の工夫やインクルーシブ教育の視点からの環境整備はぜひ取り入れていきたいと思いました。(岐阜地区 中学校)

関市教頭会においても以前、SWOT分析を行っていましたが、それは学校全体に関わったことで、全体の傾向は分かるが、具体的な動きに繋がらざらぬことがありました。多治見市のように子どもの発達に焦点化して分析することはとても有効だと感じました。特別支援コーディネーターの力をつけていくことは喫緊の課題だと思います。(美濃地区 小学校)

特別支援学級の担任だけでなく、全校職員が特別支援教育に携わることは、今後の児童育成及び教員育成に向けて、とても重要なことと考えます。全職員が特別支援教育に関わることで、実態に応じた具体的支援や保護者とのかかわり方を学び、児学級の配慮を要する児童への対応にも生かすことができます。また、学校全体で連携する仕組みづくりをすることで、様々なアイデアを生み出し、児童及び保護者の信頼も増すのではないかと思います。「育成」と「仕組みづくり」の提案は、本校にとっても大変参考になるものでした。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

SWOT 分析を通して、職員の育成と学校の仕組みづくりに活かすという視点が、自分にはなくとも勉強になりました。特別支援については、児童生徒の多様性に対して個々に対応することが大変であるという職員が本校にもおります。しかし、多治見市の教頭会では、支援の方法を TEAMS などでの都度交流し、情報を得ていることが素晴らしいと感じました。特別支援を様々な視点でとらえ、全職員で特別支援学級を受けもつ取組、特別支援コーディネーターを育成するための校内の巡回、保護者・児童生徒への周知など特別支援教育を充実させるためにいろいろな取組をしていることが分かりました。多治見市教頭会の実践を参考に、本校でも取り組んでいきたいと感じました。実践発表、大変お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

特別支援の推進において、全担任が授業を受け持ち関わりを持ったり、全校研修を行なって理解を深めることは素敵だと思いました。特別支援学級以外の学級で学ぶ子どもたちの中にも生きづらさを感じて、学級や学習から足が遠のく子がいます。特別支援教育の視点で、一人ひとりの特性に応じた適切な支援を行うことで、学校や学級に居場所を見つけ生活できる可能性は高いと感じました。(岐阜地区 中学校)

具体的な実践が分かりました。(東濃地区 小学校)

SWOT 分析による実践は、今後、多くの学校で取り組んでいくとよいと思いました。保護者への書籍回覧は、とても勉強になりました。自校で実践できたらよいと思いました。家庭教育学級で、その本の感想交流会などもできたらおもしろいかなと思いました。(可茂地区 小学校)

本校にも特別支援学級が2学級あり、また中津川市全体で見ても特別支援学級や通級指導教室に通う児童生徒が増えている。また不登校傾向の児童生徒も増えている。これからの教育において特別支援教育や不登校支援は大きな課題である。まずは SWOT 分析から始め、1つ1つ対策を考えていきたい。(東濃地区 中学校)

SWOT 分析を基に手立てを導き出すなど、これまで実践したことのない実践を聞くことができ、勉強になった。本校にも支援を要する児童や家庭があり、この視点をもとにアプローチしてみたいと思った。(可茂地区 小学校)

自校の SWOT 分析をしてみたいと思いました。強みによって脅威を軽減することができる具体的な方法が見つかるかもしれません。(飛騨地区 小学校)

実態把握等が主観的になりがちだが、SWOT 分析のように客観的に見るのが重要だと感じた。また、特別支援教育の経験がある教員が少ない中、職員の育成の(A)は大変参考になった。実践してみたいと思う。(西濃地区 小学校)

SWOT 分析について、視聴後勉強したいと思いました(東濃地区 小学校)

私が勤務する市の教頭会でも SWOT 分析により自校の分析を行っているが、多治見市の課題と強みが明確であり、より具体性のある手立てや仕組みづくりが設定されていた。インクルーシブ教育システムの構築に向けて、全教職員が授業を受け持ったり、スキルアップ研修を行ったりと市全体で取り組んでおられ、強い思いを感じた。(西濃地区 小学校)

SWOT 分析でそれぞれ自校を分析したことで教頭としての取り組むべきことがはっきりしたと感じました。ぜひ取り入れたいです。(西濃地区 中学校)

SWOT 分析によりよさと課題を明確にし、特別支援教育の視点で具体策を考え、実践している内容がとても勉強になった。仕組みづくりは学校の実態から難しい部分もあるが、全職員で取り組むことで組織力のアップを図っていきたい。(岐阜地区 小学校)

SWOT 分析の手法は、学校課題を明確にする上で有効であると感じました。(岐阜地区 中学校)

学校の体制づくりに特別支援教育の視点を取り入れていることが勉強になりました。そのなかで教頭がどうリーダーシップを発揮するかが問われるとあらためて感じました。(岐阜地区 中学校)

SWOT 分析を活用したり、特別支援コーディネーターを育成したりするだけでなく、保護者や児童をも育成していく取り組みが参考になりました。当事者だけでなく、周りも育成していくことはこれから必要なことだと思います。(岐阜地区 小学校)

自校の強みと弱みを分析することで課題がみえてくる。全職員いろいろな立場で SWOT 分析をすると、より課題が具体になり、それを学校経営にいかすことができる。(岐阜地区 小学校)

SWOT 分析を基にした取組提案について、本校でも、特別支援教育について若手教員等の指導力を上げていきたいと考えているので、大いに参考にしたい。(岐阜地区 中学校)

教員年数が経っても、特性をもつ児童への対応は、常に課題となっている。目の前の子供達をひとくくりには出来ず、毎日対応を考えながら対応している。最も大切なのは、職員間の連携である。子供が不幸にならない為に、ケース会をこまめに、対応にブレのないようにしている。(岐阜地区 小学校)

特別な支援を要する児童には、1 時間の授業時間にこだわらず、内容を吟味し、柔軟な教育課程を編制するなど工夫していきたい。(岐阜地区 小学校)

発達障がいなど困り感を抱える児童が増える中、その児童や保護者、教員など周りを育成することの大切さとその取り組みがよくわかりました。教頭はその要となれるよう組織でもってその働きかけを行いたいと思いました。(岐阜地区 小学校)

SWOT 分析を活用して、そこから特別支援教育の視点で学校全体を見直すことは、職員の育成から、児童、保護者の育成、校内の通級指導体制、教育相談、担任を支える体制まですべてがつながり、学校体制を整えているところが、勉強になりました。個別でそれぞれを改善するのではなく、分析を通して改善することは、なるほどと思いました。また、教頭会で提案して学び合う多治見市さんの教頭会の姿勢も、素晴らしく思いました。ありがとうございました。(岐阜地区 中学校)

SWOT 分析により、今自分たちがやらないといけないことがはっきりしてきました。それにより、全員が同じ方向を向いて実践することの大切さがわかりました。(岐阜地区 小学校)

全職員が特別支援教育に関わることで、目の前の子供を障害という視点にこだわり、判断することなく、一人一人の特性をもつ児童であるという立場で支援等ができることにつながると感じます。また、コーディネーター育成は大変重要で、コーディネーターがいかに自校、保護者、外部機関等のマネジメントすることが、より丁寧で的確な支援につなげていけるかに関わっていくと考えます。SWOT 分析を本校にも積極的に取り入れていきたいと思えます。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

支援センターとして不登校、生徒指導など様々な課題を一体となって解決する仕組みがあることは、担任にとって、学校にとってとても安心感がある。ぜひ、本校でもこの考えを取り入れていきたい。(西濃地区 小学校)

SWOT 分析を生かした「育成」の側面からの手立ての具現化や「仕組みづくり」の側面からの手立ての具現化について学ばせていただきました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

校内教育支援センターを整備するという点はたいへん参考にしたいと思えました。多治見市全体で SWOT 分析を取り入れて課題を明確にしながら取り組まれたことが素晴らしいと感じました。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育コーディネーターの育成、保護者の育成、児童の育成について共感することが多くありました。教頭と特支 Co が外部機関への相談をかけるなど、連携をはかることでより幅の広いコーディネーター育成となります。インクルーシブ教育という視点からも、保護者育成→理解、児童の育成→相互理解へと進んでいく環境を時間を掛けてでも構築していきたいと感じました。(東濃地区 小学校)

SWOT 分析を根拠にして、教員、保護者、生徒の育成について具体的なご実践がとても共感できました。また、強力な特別支援教育コーディネーターの育成では、強力なという言葉に思い入れが強いことを感じました。自分も経験がありますが、管理職からのバックアップも大きな力になると思えます。これまでも集会で様々な学びの場があることやだれもが楽しく自分らしく学校生活を送るためにどうすればよいかを考えることなどの啓発を行ってきましたが、継続的に行うことの重要性を実感します。担任が一人で抱え込まない体制づくりも大切です。多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。(美濃地区 中学校)

自らが在籍する多治見市の発表。坂田先生、ありがとうございました。(東濃地区 中学校)

SWOT 分析での育成の面からの手立てが具体的で、少しでもその枠組みを生かした育成につなげていきたい。(東濃地区 中学校)

SWOT分析をすることで、客観的に自校を見ることができると感じました。特別支援学級の全校研究会はとても意味があると感じました。私自身、若い時のことを思い出すと、通常の学級のことしか知らず、特別支援教育に対して全く知らなかったからです。若い教員が多い中で、とても効果的であると感じました。(西濃地区 小学校)

SWOT分析という考え方を初めて知りました。強みを生かし、支援にあたることの具体的実践として本校でも取り入れていきたいと感じました。大変勉強になりました。(東濃地区 中学校)

研修例の活用や紹介されている本の購入をして学校運営に役立てていきたい。(西濃地区 小学校)

学校全体で取り組んでいることがとてもわかりました。(可茂地区 中学校)

SWOT分析を効果的に活用し、手立てを具体的に立て実践されていることが素晴らしいと感じました。MIMなどまだ十分理解していないことについて、この機会に知ることもできました。障がい者の視点からのインクルーシブ教育という点については、まったく考えていなかった視点で驚くとともに、その実践の素晴らしさやアイデアに多くを学びました。(東濃地区 小学校)

SWOT分析を活用した改善は、大変勉強になりました。今後の自校の学校改善に取り入れたい。(可茂地区 中学校)

全職員が特別支援学級の授業に携わることはよい考えだと思いました。関わりもせず「大変ですね」「困ったときは助けるよ」は他人事です。自分が関わることで、担任の先生の切実なご苦勞が理解できます。そのうえで、手立てや支援の方法を交流すべきと考えます。また、校内に「教育支援センター」がある学校の紹介も参考になりました。教室へ入りづらい子、不登校傾向の子への対応ができる教室を本校にも作りたいと思います。(西濃地区 小学校)

SWOT分析を活用した「育成」の側面からの手立てで、全職員が可能な限り特別支援学級の授業を受け持つという実践は、是非本校でも挑戦してみたいです。発の研修では得られない深い理解や実践力が授業をもつことで身につくのではないかと思います。(東濃地区 小学校)

SWOT分析による実態把握と手だての方向性を見出す手法が、効果的であったと学びました。(可茂地区 中学校)

SWOT分析について改めて学ばせていただきました。その結果を「育成」と「仕組みづくり」という人を変える(成長)ことと環境を変えることについて整理し、その両面からアプローチしたところが参考になりました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

特別支援教育に関しては、児童生徒の実態把握等の重要性が常々言われているが、学校そのものを分析して実態把握し、組織や仕組みを改善していくという取組がとても勉強になった。(東濃地区 小学校)

実践において「育成」と「仕組みづくり」の2つの視点があることが参考になりました。どちらかだけでは、体制として弱いと感じ勉強になりました。その視点で本校を見直したとき、「育成」が弱いのではと感じました。特に参考になったのは、全職員が特別支援学級に関わるというものです。実体験が何よりの研修になると思うので、すこしでも取り入れたいです。(東濃地区 小学校)

SWOT分析を基にした手立ては、育成と仕組みづくりの両側面から具体化して提案され、それぞれの学校に応じた手立てがとても参考になりました。職員の育成においては、月一度のこどもを語る会、保護者の育成においては、家庭への書籍の回覧など、具体的に取り入れてみたい実践ばかりで、大変勉強になりました。(東濃地区 小学校)

特別な支援を要する児童生徒への対応について、組織的に対応すること、担任以外の職員が情報共有からの連携して対応する仕組みの構築することの重要性を再確認しました。また、他機関との連携を積極的に行うことと、その窓口を一本化することが大切であることを確認しました。学校全体で、特別支援の学級担任を支える体制づくりについては、本校の課題であることも感じ、すぐにでも、実践していかなければならないことだと感じました。(東濃地区 中学校)

チャットを使つての教頭の交流は良い方法だと思いました。相談室をどのように活用しているかという視点で本市も他校と交流してみると良いと思った。(西濃地区 小学校)

SWOT 分析を生かし、具体的な実践を紹介いただけただけが勉強になりました。何よりも実践例が豊富で、大変参考となりました。特に、保護者への理解を広げるための回覧本という発想はなかったので、自校でも生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

特別支援教育の充実にむけ、何度も教頭会を重ね実践交流をして、組織のこと、環境整備のこと、支援のあり方について、より良い方途を探ってみえたことに頭が下がる思いです。。特別支援教育への理解を深め、支援のあり方を学ぶために、全職員が特支学級の授業をもつ取り組みをされたというのが、特に印象に残りました。ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

研究同人として、みんなで話し合ったことがうまくまとめられていると感じました。(東濃地区 小学校)

SWOT 分析を基に、「育成」と「仕組みづくり」の側面から具体的な手立てを整理していくことは、とても分かりやすく、有効な手段であると思った。今後このような視点を、本校でも取り入れていきたいと思った。(可茂地区 小学校)

SWOT 分析を活用し、各項目ごとに分けて手立てを考えているところは、今後多くの場で活用ができるのではなかと感じました。(東濃地区 中学校)

特別支援教育にかかわる職員の資質向上に向けて、学校の事情によりなかなか難しいが、実際に特別支援学級を担任したり、授業を担当したりして、実際に経験することが有意義であると考え。また、自分もこれまで、担当者の立場で特別支援学級の弾力的運用として入級希望者の体験的学習の実施や、校内体制による通級指導を行ったことがあり、対象児童生徒やその保護者にとってとても意義のある対応であると考え。その場合、担当者の負担軽減の工夫が必要であると思う。(美濃地区 中学校)

「育成」はとても難しいです。昔の教育と違い、交流が減ってきていること年代のバランスが崩れていて組織作りに苦戦しているこの頃。強み、弱み、機会、脅威の言葉を聞いて「チーム」創り力を注いでいかなくてはいけないと思いました。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育の理解、指導の充実が喫緊の課題となっている。第2分科会が提案された「体制を整え育成を図る」実践は大変参考になる内容であった。育成においては、職員個人のスキルアップ、特別支援教育コーディネーターの活躍の場の保証。保護者の育成。三者が一体となって児童生徒を育てていくための具体的手立てが整理されており、ありがたい。そのうえで教頭としてどのような立場で関わっていくのか提案事項を本校でも実践を重ねていきたい。(東濃地区 中学校)

特別支援学級の授業を全職員で受け持つ学校があるとの発表内容に、その学校の仕組みのすばらしさを感じた。(飛騨地区 小学校)

特別支援学級に入級する生徒が増加する中で、柔軟な教育課程の編成は大変ではあるが、今後必要になると思いました。コーディネーターの役割が重要ですが、職員数には限界があるので、無理なく取り組めるとよいです。教頭会での連携がすばらしい実践でした。ありがとうございました。(可茂地区 中学校)

障がいのあるなしに関わらず一人ひとりの児童の実態をつかみ、その子にあった支援などが必要と感じました。(岐阜地区 小学校)

特別支援学級の授業を全職員が持つことや、特別支援学級で全校研を行うことは、これまで実際にやったことがなかったが、それらを通して障害がある生徒への理解がすすむことは間違いないと思う。来年度本校は特別支援学級がなくなってしまうが、そういう視点で他に方法がないかを探していきたい。(東濃地区 中学校)

SWOT 分析を特別支援教育に活用するという研究に興味深く聞かせていただきました。自校の強みと弱みを明確化して、このように分析し、具体的な戦略をたてる。とてもよくわかる話で、すぐ本校でも実践できそうだなと思った。仕組み作りにしても、減税も行っているけれど、このように整理することはとても重要だと感じた。即実践できる話をありがとうございました。(飛騨地区 小学校)

SWOT 分析による自校の強みを生かす取組が素晴らしいと感じました。(岐阜地区 小学校)

教頭に求められるスキルや能力として「特別支援教育」に関わるものは大きいと日頃から感じていました。特別支援教育の視点から学校をリ・デザインするといった実践に感銘を受けました。教頭として特別支援コーディネ

ネーターをサポート・育成しながら、自校の特別支援教育の仕組みづくりを進めたいと思います。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

ICTの活用で、学校が楽しいと言える学校をめざすなかで、教師の業務も効率化することも、児童へ帰ると感じた。(西濃地区 小学校)

通常学級担当の先生に対しても、特別支援教育の観点をもってもらい、その指導法に関して学んでいただいて、教員の資質向上に努めなければならないと感じました。(美濃地区 小学校)

SWOT分析をはじめとして、自校の強みや弱みといった環境を分析的に捉え、それらについて具体的な方法を位置付けながら実践を重ねている。その結果から見えてきたものを、他校との情報交換等を通じてさらに検討を重ね、よりよい対応を目指していく。今後も、チーム教頭の一員として邁進していきたいと思います。(東濃地区 小学校)

本校は、教頭が特別支援教育コーディネーターを兼務しているが、保護者との連携や担任、通級担当との連携の難しさを感じている。小規模校であっても障害を抱える児童は確実に増えており、要支援児童へのアプローチなど、適切に行えているか、自信がないところである。指導体制作りは参考になり、来年度に向けて見直していきたい。(美濃地区 小学校)

とても参考になりました。自校でも取り入れてみたいと思いました。(西濃地区 小学校)

資料を作成した実践交流を通して、研究推進を行っている点に頭が下がる思いになりました。(可茂地区 中学校)

SWOT分析について、言葉としては聞いたことがあるが、実際にどのように活用していくと良いのかが知れてよかった。保護者への理解を図る取り組みや、すべての子どもを大切に作る仕組みづくりは、とても参考になった。(可茂地区 小学校)

SWOT分析をもとに手だてを構築した点が参考になった(飛騨地区 中学校)

特別支援学級在籍児童の交流学級への柔軟な参加のあり方について、ご提言いただき、大変参考になりました。(東濃地区 小学校)

教頭として、SWOT分析に基づいた職員や保護者、児童の資質向上と体制づくりには、障がい者と健常者を区別する意識改革をしながら進めることの重要性を学ばせていただきました。(西濃地区 小学校)

インクルーシブ教育が重要視される中で、教師の意識改善の必要性を感じました。(東濃地区 中学校)

障がい者の視点から校内の環境をみて、児童生徒の安心した生活環境をマップで作りで実現した試みは、大変興味深かった。(岐阜地区 中学校)

SWOTの活用が図られ、組織運営の質の向上が図られていることが、大変参考になりました。(岐阜地区 小学校)

校長の学校経営方針の具現化には、自校の強みを活かした仕組みづくりが不可欠である。また、その仕組みを活用し、職員の資質向上にも努める必要がある。(西濃地区 小学校)

SWOT分析を用いて「手立て」「仕組みづくり」を明確にする取組が興味深かった。特支COの育成や校内体制づくり等、教頭がさらに専門性を高める必要を感じた。(東濃地区 小学校)

強みと弱みを共通理解することは大切だと思った。(西濃地区 小学校)

本市で進めていることなので、今後さらに深めていきたいと思います。(東濃地区 中学校)

登校しぶりのある児童に対する教育相談室の整備が大変すばらしいと感じました。(飛騨地区 小学校)

コーディネーターの役割の重要性について共感できた。(可茂地区 小学校)

SWOT分析を生かした自校の強みと課題を考える。特に強みを生かすという考え方が自分の発想になかったため、提案を受けて自校でも考えてみたいと思いました。また、特別支援教育の視点で学校を見直すという考

え方も、児童の実態から振り返ると本当に必要なことだと考えました。提案していただき、ありがとうございました。特別支援コーディネーターを育てるという視点に立って、学校運営をしていきたいと考えました。(可茂地区 小学校)

私自身、特別支援教育において、応用行動分析学の活用や人的・物的環境整備に取り組んでまいりましたが、今回のご発表から、新たに SWOT 分析を知ることができました。調べましたところ、企業や病院でも実践されている効果的な方法と分かり、大変興味深い内容でした。勉強になりました。ありがとうございました。(西濃地区 中学校)

全職員が特別支援教育についての理解を深めるために、組織的に取り組んでいることがわかりました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

校内の教育支援センターの環境整備について、多様性を認める様々工夫が勉強になった。(可茂地区 小学校)

特支学級保護者の願いを実現させるためにも、書籍の家庭回覧は参考となった。(西濃地区 小学校)

特別支援学級に全職員が関わる仕組みを参考にします(西濃地区 小学校)

時間と人が限られる中、様々な工夫をしておられると感じました。他にもやらなければいけないことがある中、取捨選択をしながら職員の育成に力を入れていきたいと思えます。(西濃地区 小学校)

SWOT 分析で強みを生かし、子どもたちの実態をもとに、学校をリデザインするという考え方が参考になりました。(飛騨地区 中学校)

近年ニーズが高まっている特別支援教育について、まだまだ現場の整備や対応が十分とは言えないと感じております。多治見市の実践を参考にして、本市・本校での取り組みの方向を示して頂きました。ありがとうございました。(東濃地区 中学校)

特別支援教育の視点で校内の環境や教育活動を見直すことを、市ぐるみで取り組んでみえることがすばらしいと思いました。また、各校の実践事例を教頭会で交流し、自公に取り入れようという取り組みがすばらしいと思いました。全職員が特別支援教育について学ぶ機会をもってみえることを学びたいと思いました。(美濃地区 小学校)

子どもの特性を多面的に把握することが大切だと感じました。(東濃地区 中学校)

グレーゾーンと言われる通常学級に在籍する生徒への手立てや効果的な連携の在り方などを交流し、担任や学年職員が様々な方法で指導できるよう、校内でも取り組んでいく必要があると感じました。(岐阜地区 中学校)

一つの理論をもとに、様々な学校での事例を紹介していただきくことで、諸課題に対して、どの方面からどのようなスタンスで立ち向かっていけばよいか分かり、参考になった。(美濃地区 中学校)

強み×機械、強み×脅威、弱み×機会、弱み×脅威 の視点で、手立てを明確にしている手法が勉強になりました。児童、職員の育成だけでなく、保護者の育成の視点が大切だと感じました。(美濃地区 小学校)

SWOT 分析についてよく知らなかったので大変興味深く話を聞くことができました。(東濃地区 中学校)

これまで自校で行ってきた特別な配慮を要する児童への対応にプラスして新たな対応を学ぶことができた。(可茂地区 小学校)

SWOT 分析の方法は大変興味深く学ばせていただきました。(可茂地区 小学校)

特別支援の担任以外が授業を受け持ち、関わるという取り組みがいいと思った。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育の視点から学校リ・デザインをしていくという視点に興味をもちました。本校でも、もう一度、特別支援の視点から見直すことをやってみたいと思いました。また、グレーゾーンの児童生徒が増える中、職員の研修のやり方や、保護者への理解方法も参考になりました。学校が楽しいと誰もが思える学校づくりの視

点として、インクルーシブ教育の構築は、喫緊の課題だと提案から学ばせていただきました。ありがとうございました。(可茂地区 中学校)

特別支援コーディネーターの育成については、非常に参考になりました。小規模校であるが故に、すぐに手が届くが故に、児童の困り感の本質を見抜けないことがありました。これまでの方法にとらわれることなく、いろいろな方面から子ども達をみながら、柔軟に対応できる学校にしたいと切に感じました。(東濃地区 小学校)

SWOT 分析を活用し、多面的に分析することで具体的な対応の仕方が分かってくるのがよいと思う。(西濃地区 小学校)

SWOT 分析を生かした、「育成」と「仕組みづくり」がよく理解できた。人とシステムの両方からアプローチすることで、学校の課題の解決に向かうことができる。このことを大切に、働きやすい職場にしていきたいと思った。(西濃地区 小学校)

特別支援教育に関わっては、本校も課題を抱えています。SWOT 分析の結果から、「育成」の側面で手立てを講じていっしょにすることは大変学ぶ点が多かったです。対象の児童やその保護者だけでなく、すべての保護者や児童にアプローチをすることは今後行っていきたいこととしてもつことができました。(東濃地区 小学校)

特別な支援を要する児童の対応について、組織的に機能するようにすることの大切さがよく分かりました。(岐阜地区 小学校)

SWOT 分析を踏まえた具体的な方法について学ぶことができました。(岐阜地区 小学校)

自分たちの実践を上手にまとめ発表していただきました。ありがとうございました。(東濃地区 中学校)

SWOT 分析で強みを活かす視点が良いと感じた(美濃地区 小学校)

通常学級で、特別な支援を必要とする児童は増加傾向にあります。知見にもあるように、あるとよい支援、ないとい困る支援を、子どもの実態から考えていく必要があると思います。(岐阜地区 小学校)

教頭のアシリテーターとしての動きなど、学ばせてもらうことが多くあった。(岐阜地区 小学校)

特別支援学級の授業を全職員が受け持ったり、全校研を仕組んだり、支援方法を吟味し共通理解したりするといった、現場重視の校内特別支援教育研修を本校でも参考にしていきたいと思った。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育の充実は本校も喫緊の最重要課題である。今年度は教頭が特別支援教育コーディネーターを務めているが、今後のことを考えるとそのスキルをもった職員を育成することが重要である。今回の発表では具体的な育成方法を学ぶことができました。早速本校においても取り入れ、実践していきたいと考えております。(岐阜地区 中学校)

特別支援学級の授業を全職員が受け持つ発想が面白かった。教育相談の要素を取り入れた取り組みも勉強になった。(東濃地区 小学校)

SWOT 分析を活用することで、市内の学校が共通指標の元、それぞれの学校の実態を分析したり、具体策を考え実践したりすることは、学校間を超えた成果や課題の共有や積み上げにつながり、とても有効であると感じました。また、SWOT 分析では、自校の課題のみではなく、よさ(強味)を分析し、強みを生かした課題解決に向かう手立てを考えることは、職員の自己肯定感の向上にもなり大切なことだと学ばせていただきました。さらに、分析や具体策を事項だけでなく、他校から客観的な意見をもらうことは、新しい一面を知る機会にもなり、一般化として自信をもって進めていくこともできます。こういった形で、教頭会を組織する重要性を感じました。(岐阜地区 中学校)

児童・職員だけでなく、「保護者を育てる」の言葉に、ハッとさせられました。過保護、過干渉、放任など、保護者の対応の仕方に疑問を感じるが多かったのも、保護者も育てる意識が大切なのだと思います。また、週1で特別支援学級の授業を担当することも画期的で、実践から学べる機会であると感じました。(西濃地区 小学校)



特別支援教育の視点をより強化し、特支コーディネーターの育成を目指した意図的な場を設けたこと、また、児童や保護者に対して特別支援教育や障がいに関わる理解を求めたり深めたりすることを通して、学校全体で支援する体制づくりの重要性について強く実感した。(岐阜地区 中学校)

私自身も特支 co を担当していますが、専門ではないので、時間を見つけて本を読み漁り、少しでも支援の仕方や行動特性の捉え方をアドバイスできるようにと過ごしてきたが、教頭会でこのように学ぶ場がある事が素晴らしいと感じました。強力な特支 co を意図的に育成しようとしていることに感銘しました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

私自身も昨年度より特支 co をしていますが、特別に研修を受けたわけでもないため、今までの経験からしかアドバイスする事ができず、ひたすら文献を読みあさってにわか仕込みの知識に頼っている状況です。多治見市では教頭会の研修でこうした事を学ぶことができている、素晴らしいシステムだと感じました。さらに強力な特支 co を育成するという事も併せて行なっていることが大変参考になりました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

本校においては、若手職員に学ぶ意欲を持たせることが難しく、残念ながら強力な特支コーディネーターを育成するには至らない。(岐阜地区 小学校)

SWOT 分析を有効に活用するための手立てを学べました。特別支援に限らず、様々な視点で活用できることに気付く、今回の提案が大変役立ちました。(東濃地区 小学校)

SWOT 分析を学校に導入した実践例として、非常にわかりやすかったです。(東濃地区 小学校)

自校の課題として、通常学級における特別な支援を要する児童への対応があげられます。そして、特別支援教育の視点を取り入れた声かけや授業デザインがなかなかできない若手教員も多いです。この分科会で学ばせていただいた、特別支援 CO.の専門性を生かした職員研修や、授業を参観してアドバイスをするという内容は、自分としてもすぐに取り入れて実践していきたいと感じました。今後、特別支援学級や、特別な支援を要する児童はどんどん増加していくため、できるだけ早く職員のスキルアップを図りたいです。(岐阜地区 小学校)

「育成」の側面からの手立て具現化の中で、『特別支援の授業を全職員で受け持つ』という試みは、本校でもすぐにやれるように計画を立て、具申しようと思いました。特別支援学級には在籍しなくても、特別な配慮を要する児童がいずれの学級も多くなっている本校では、教職員としての自信をもち、指導のスキルを高めるためにも、この取組はとても有効だと感じました。(西濃地区 小学校)

SWOT 分析もどの学校でも行い、強みや弱みをはっきりさせて目的をもった実践ができていること、これからの時代特別支援教育はさらに必要とされることは私も感じるので、多くの先生方に学ぶ機会や実際に関わる場面を増やすということは、重要であると改めて感じました。(東濃地区 小学校)

学校課題の改善に向けて大切なことは、自校の現状を正確に把握し、把握した強みを生かし課題を改善していくためにはどうしていけばよいかを常に考えながら、学校を運営する仕組みづくりをしていくことであることを学ばせていただきました。(東濃地区 中学校)

交流学級でのびのび学べる集団になるよう、児童集団だけでなく教員、保護者も常に自然な交流ができるようにしていきたいです。(西濃地区 小学校)

子どもの発達に関して仕組みづくりの大切さを感じました。(飛騨地区 中学校)

特別支援の重要性と校内での役割、教頭としての責務(東濃地区 中学校)

SWOT 分析を活用し、自校の特別支援教育に関わるよさと課題を明確にして、手立てを明確化して取り組まれている点が素晴らしいと感じました。それにより、焦点化した取組が各校で実践されることとなります。一般的な話ではない、自校における喫緊の課題の改善に向かうのだという強い思いも伝わりました。多治見市内の各小中学校での実践が紹介され、市としてこのテーマに取り組み、成果を上げていってほしいです。ご紹介してくださった実践を参考にしたいと思います。(岐阜地区 小学校)

SWOT 分析にして、各校の取り組みを考えていく方法は、より課題がわかりやすいと思いました。特別支援教育は、どの学校でも取り組んでおられると思うが、特別支援コーディネーターの育成は重要な課題だと思うので、参考になりました。(岐阜地区 小学校)

様々な要因からの困難さを抱えている子どもたちには柔軟な教育課程の編成が必要である。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育を中核とした学校運営をすることで、特別支援学級、発達通級の児童のみならず、通常学級に於いても児童全体の育成に繋がるのではないかと思える実践である。学校の中には、担当が一人という所も存在すると考える。教師が孤立せず相話し合っ指導に携わることができるメリットもあると感じた。(東濃地区 小学校)

特別支援を中核とした教育体制を構築していくことが、特別支援学級、発達通級のみならず、通常学級の児童生徒の、誰一人取り残すことのない学びにつながっていくと感じた。(東濃地区 小学校)

SWOT 分析で論議的に強みと弱みを明確にし、指導支援を行っていくことは、効率的な指導ができるだけでなく、児童生徒も早く救われるのだと思いました。(岐阜地区 中学校)

特別支援コーディネーターの重要性を再認識した。本校でも特別支援コーディネーターを中心に組織として対応していきたい。(美濃地区 小学校)

特別支援教育に対する理解はだんだん深まってきているものの、入級児童生徒の増加に対して、人も環境もまだまだ整っておらず、その対応は自校でも急務であると感じている。多治見市教頭会での実践の人材育成、仕組みづくりは参考にあるところがあり、町や校区での情報共有、柔軟な教育課程の編成など今後の参考とさせていただきますと感じた。(可茂地区 中学校)

SWOT 分析の事は十分に知識が無かったので大変勉強になりました。(可茂地区 中学校)

教頭会でのICT研修効果的に実施されていることが素晴らしい。(岐阜地区 中学校)

子供たちの状態が多様化するなかで、学校のシステムもより柔軟に対応できるようになっていく必要があることを学んだ。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育の授業に全教員が触れられる工夫が素晴らしいと思います。(東濃地区 小学校)

強力な特別支援教育コーディネーターの育成は大賛成。通常の学級にいる支援が必要な子供たちのためにも、コーディネーターに率先して動いてもらえるとありがたい。(岐阜地区 小学校)

SWOT 分析を用いたりして、教頭会で取り組んでみえるのが、素晴らしいと思いました。(岐阜地区 小学校)

海津市でも SWOT 分析を通して教育課程の研究を行っていますが、全教職員で強みの共有し、強みを生かした学校運営につなげることが大切にできると感じました。(西濃地区 小学校)

本校は特別支援教育にかかわる職員の育成が課題です。多治見市の取組を参考にさせていただきたいと思いました。ありがとうございました。(東濃地区 小学校)

SWOT 分析を活用することによって、教育課題の解決方法や最新の教育動向に応じた取組等を、管理職が自校の実態に応じて、妥当性を高めて取り入れることができることがわかりました。また、新たな体制づくりを進めるだけでなく、保護者や関係職員を巻き込んだ動き作りを並行して進めている点が非常に有効であると感じました。(東濃地区 中学校)

具体的実践が紹介された上に、プレゼンと研究大会要項の紙面が一致していて聞いていてとてもわかりやすい内容でした。(東濃地区 小学校)

全教職員が可能な限り、特別支援学級の授業を受け持つというのは、よいアイデアだと思った。教師の特別支援に対する理解、児童の理解も深まるし、子どもにとってもメリットは大きいと思う。実践の中で出てきたメリット、デメリットを教えていただきたいとも感じた。(西濃地区 小学校)

特別支援に関わる研修は、特別支援学級や通級指導に限ったことではなく、どの生徒を理解する時にも有効な知識です。そのため、教頭会としてこのような取組が位置づいている事は、教員指導の観点から、重要で魅力的に感じました。(東濃地区 中学校)

特別支援教育を進めるにあたって、保護者の理解も必須ということで、本などを回覧して知っていただくという取り組みは参考になりました。(美濃地区 小学校)

職員全員で特別支援教育を進めることが出来るように、教頭として様々な働きかけができることを学ばせて頂きました。また、職員だけでなく、保護者に対し特別支援教育への理解を深めるための手立てなど、新たな視点を頂きました。ありがとうございました。(東濃地区 小学校)

人材育成の対象として、「特別支援コーディネーター」があることは、「灯台下暗し」で新たな視点でした。特別支援の中心になるべき方なので、われわれ教頭や校長が、学校運営について学び続けるのと同じように、特別支援コーディネーターの方も常に情報をアップデートし、支援技術を磨き、学校全体のよりよい支援体制づくりにご尽力いただくためには、コーディネーターの方の研修等について支援する必要があります。来年度に向けて、本校でも検討していきます。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

SWOT分析について教えていただき、自校に生かすとしたら何ができそうか、実践を聞きながら考えることができました。(東濃地区 中学校)

教頭が主となって動くのは、とても動きやすいが、ますます業務が大変になる。動き方の中でも、専門性が必要な部分と、職員の中心としての部分は、やはり分業が必要だと感じた。(可茂地区 小学校)

新たな分析手法を学びました。(岐阜地区 小学校)

特別な支援が必要なお子さんについて、「個別で支援する場」と「他者と協働しながら支援する場」の見極めがとても難しいと感じた。(飛騨地区 小学校)

交流学級の一部でも参加できる教育課程は、本当に必要だと感じました。また、学習に困難さを感じている生徒にタブレット、アプリの導入により、板書することや文字を書くことの困難さを解消し、通常学級で学べる環境も作れるようになってきたと感じています。(西濃地区 中学校)

柔軟な教育課程の編成は必要であり各学校の実態に応じて編成することが必要であることを学びました。(岐阜地区 小学校)

松葉杖利用のためのマップ作り、とてもよいアイデア。そういった目で学校環境を見ることも必要だと思いました。(飛騨地区 小学校)

職員育成に、特別支援に関わることを意図的に設定するのは、学校全体や学級の運営に支障がなければ、有効な取組だと思いました。特別支援コーディネーターは、活用して全職員や児童の支援にという考え方をしていますが、特別支援コーディネーターの育成、資質向上まで目が届いていませんでした。必要な視点だと思いました。保護者の理解を具体的に勧めていたご実践もあり、考えるだけでなく、動くことができるものだなと感じました。本校の特別支援コーディネーターも、特別支援学級について、全校児童の理解の機会を設けたいと話していましたので、ご実践を聞いて、改めてバックアップしたいと思いました。(東濃地区 小学校)

特別支援教育を授業に入ること、職員の育成に繋げるという視点は、興味深いものでした。学校全体や学級の運営に市況がなければ、有効な手立てだと思えます。また、特別支援コーディネーターの活用の仕方でも、育成・資質向上という視点は、自分の中で欠けていたところです。学びがありました。本校の特別支援コーディネーターが、特別支援教育について、全校児童の理解の機会を設けたいと話していたので、改めてバックアップしたいと思いました。(東濃地区 小学校)

多様な児童生徒に対し、柔軟に対応できる環境を作ることは大切なことだと思いました。また、職員一人一人が特別支援教育の理解を深め、指導力を高めることで、不足しているマンパワーを補うことに繋がるのだと思いました。(東濃地区 小学校)

特別支援教育の視点を常に持ってどのクラスの指導にも臨むべきだと伝えていきたい(岐阜地区 中学校)

2Aと比較したくて試聴しました。地域によって置かれた状況は違うとは思いますが、いずれも特別支援教育の充実は学校教育活動の要であるとの立場で考えられていると感じました。(東濃地区 小学校)

特別支援教育に関する専門性の向上を図るためにWISCや検査結果の見方などを研修として仕組むのは良いと思った。特別支援学級に関わっているなら分かるが、そうでないなら実際は知らないことも多いと思う。(岐阜地区 小学校)

特別支援の根本は周囲の理解と支えだと思えます。その風土の醸成のための手立てとしての「特支コからの全校集会への啓発」と「保護者への書籍の回覧による啓発」はとてもよい取組だと思いました。特別支援コーディネーターを育て、研修等を通して職員の意識を高めるといった環境づくりは時間がかかりますが大切なことだと思いました。(飛騨地区 小学校)

全職員が特別支援に関わることの必要性を感じた。(美濃地区 中学校)